

本年も「イネ縞葉枯病」「ヒメトビウンカ」の防除対策を必ず実施しましょう！

【注意】「彩のかがやき」「彩のきずな」は縞葉枯病に抵抗性ですが、ヒメトビウンカの増殖を抑える効果はありません。ヒメトビウンカの防除は必要です。

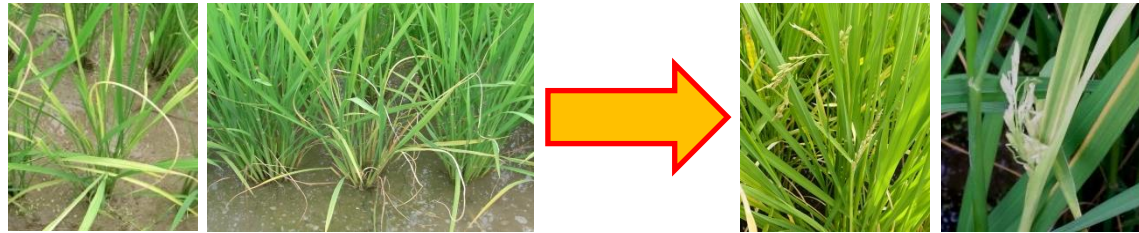
イネ縞葉枯病は、「ヒメトビウンカ」が媒介するウイルス病です。

発病株は「ゆれい症状」(左)や、出穂の異常・不稔(右)を起こして減収します。



媒介虫ヒメトビウンカ (成虫の全長: 3.5~4mm)
 上段左: ♂成虫、右: ♀成虫、下段: 幼虫
 ※ウイルスは卵を通じて次世代に引き継がれ、翌年に持ち越されます。

防除のポイントは育苗期から移植時！



育苗期	播種・育苗時～移植時	箱粒剤を使用して必ず防除！					本田期および収穫後																																																						
<ul style="list-style-type: none"> ○イネ科雑草はウンカ類の棲息場所となりますので、育苗場所周囲の除草を行います。 ○できるだけ播種時に薬剤を処理します。 ○ウンカ類の飛込みを避けるため、苗箱は寒冷紗等でトンネル状に被覆します。 ○播種時に薬剤を使用しなかった場合は、被覆を外したらただちに薬剤を処理します。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">防除薬剤の例 (銘柄)</th> <th rowspan="2">薬剤の成分数</th> <th rowspan="2">使用時期</th> <th rowspan="2">処理量 (80cm×30cm×深さ3cmの育苗箱、増土約5½)</th> <th colspan="5">対象病害虫</th> </tr> <tr> <th>ウンカ類</th> <th>フタオビコヤガ</th> <th>いもち病</th> <th>紋枯病</th> <th>内穎褐変病</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アドマイヤーCR箱粒剤</td> <td>1成分</td> <td>播種時(覆土前)～移植当日</td> <td rowspan="5">50g/箱</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ワンリード箱粒剤08</td> <td>1成分</td> <td>播種前、播種時覆土前～移植当日</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ルーチンアドスピノ箱粒剤</td> <td>3成分※</td> <td>播種時(覆土前)～移植当日</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○ (移植当日)</td> </tr> <tr> <td>エバーゴルフフォルテ箱粒剤</td> <td>3成分</td> <td>播種時(覆土前)～移植当日</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>フェルテラチェス箱粒剤</td> <td>2成分</td> <td>播種時(覆土前)～移植当日</td> <td>○</td> <td>○ (移植3日前～移植当日)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※ルーチンアドスピノ箱粒剤: 化学合成農薬としては2成分。 【薬剤の登録内容は平成30年3月28日現在】必ず、最新の登録内容を確認の上、使用してください。</p>					防除薬剤の例 (銘柄)	薬剤の成分数	使用時期	処理量 (80cm×30cm×深さ3cmの育苗箱、増土約5½)	対象病害虫					ウンカ類	フタオビコヤガ	いもち病	紋枯病	内穎褐変病	アドマイヤーCR箱粒剤	1成分	播種時(覆土前)～移植当日	50g/箱	○					ワンリード箱粒剤08	1成分	播種前、播種時覆土前～移植当日	○					ルーチンアドスピノ箱粒剤	3成分※	播種時(覆土前)～移植当日	○	○	○		○ (移植当日)	エバーゴルフフォルテ箱粒剤	3成分	播種時(覆土前)～移植当日	○		○	○		フェルテラチェス箱粒剤	2成分	播種時(覆土前)～移植当日	○	○ (移植3日前～移植当日)				<ul style="list-style-type: none"> ○箱処理薬剤の残効は、銘柄により異なりますが移植後おおよそ40～60日です。その後、多発の懸念がある場合は追加防除を行います。 ○収穫後の刈株および再生株はヒメトビウンカの棲息場所として重要です。速やかに耕うんし、稲株をすき込こんで枯死させます。 ○再生株での発病も広く見られます。放置すると媒介虫がウイルスを獲得する割合が高まります。
防除薬剤の例 (銘柄)	薬剤の成分数	使用時期	処理量 (80cm×30cm×深さ3cmの育苗箱、増土約5½)	対象病害虫																																																									
				ウンカ類	フタオビコヤガ	いもち病	紋枯病	内穎褐変病																																																					
アドマイヤーCR箱粒剤	1成分	播種時(覆土前)～移植当日	50g/箱	○																																																									
ワンリード箱粒剤08	1成分	播種前、播種時覆土前～移植当日		○																																																									
ルーチンアドスピノ箱粒剤	3成分※	播種時(覆土前)～移植当日		○	○	○		○ (移植当日)																																																					
エバーゴルフフォルテ箱粒剤	3成分	播種時(覆土前)～移植当日		○		○	○																																																						
フェルテラチェス箱粒剤	2成分	播種時(覆土前)～移植当日		○	○ (移植3日前～移植当日)																																																								

